

序論)

- イザヤ 61 章の預言は、その解釈の視点によって異なる理解が可能。
- 当時のユダの民にとっては、捕囚からの解放と【主】の祭司としての立場の確立を示す預言。
- 【主】イエス・キリストは、この預言がキリストによって成就したと宣言。
- イザヤ書 61 章の 1-2 節は、キリストによる救いの預言と理解する必要がある。

1)キリストの目的(1-3 節)

- 目的: 打ち碎かれた人々を癒やし、罪と暗闇から解放すること。
- 内容:
 - 貧しい人への良い知らせ。
 - 捕らわれ人の解放、目の見えない人の目を開く。
 - 「恵みの年」の開始。
- 解釈: 「復讐の日」は世の終わりに成就するため、恵みの期間は今も継続中。
- 結果: 灰は飾りに、嘆きは喜びに、憂いは賛美に変えられる。

2)救われた者の使命(3b-7 節)

- 新しいアイデンティティ: 「義の樅の木、栄光を現す、【主】の植木」とされる。
 - 偶像礼拝者から【主】の栄光を現す者に変えられる。
- 使命:
 1. 廃墟を復興する: 神の国を建設し、この世界を【主】が望む姿へと回復する。
例) 賀川豊彦による神の国運動
 2. 【主】の祭司として働く:
 - 神と人々をつなぐ役割。
 - 祈りと福音伝道を通じて神の愛を広げる。

3)【主】による祝福の証明(8-9 節)

- 【主】の性質: 公正を愛し、不法を憎む。
- 【主】の約束:
 - 正しい者への報い、不法への裁き。
 - 【主】の民が祝福されていることを世に示される。

4)【主】の民の証し(10-11 節)

- 【主】の働き:
 - 救いの衣、正義の外套、祭司の頭飾りで【主】の民を飾る。
 - 正義と賛美を国々に芽生えさせる。
- 証しの内容: 【主】の民が内側から正義と賛美を湧き出す存在となる。

結論

- イザヤ 61 章はキリストによる救いが成就した預言。
- 救われた者の使命:
 1. 愛の実践を通じた神の国の復興。
 2. 【主】の祭司としての務め。
- 【主】が私たちが正しいと証ししてくださることを信じ、使命を果たす。